

トビタテ選考体験記（18期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：経済学部

学年：2年（応募時）

【トビタテ応募前】

交換留学先が決まった後に、国際交流室の先生に奨学金の相談をした際に教えていただいたのが、トビタテを知ったきっかけである。

【トビタテ応募にあたり（書面審査対策）】

書類審査については、提出期限が迫っていたため、あまり情報収集を行うことが出来なかった。私は、審査する方にインパクトを残せるような文章を心がけた。

自己アピール記述書についてだが、自分は用紙一面を文章で埋めたが、多くの人は写真などを使ってポスター的なものを作っていたと、書類審査合格後に知った。

自己アピール記述箇所には、そのような書き方の例などは載っていないので、トビタテに応募する際は、積極的に情報収集を行うのが大切だと思う。

【トビタテ面接にあたり（面接審査対策）】

（事前対策）

集団面接については、神戸大学国際課が開催する集団面接対策会で、個人面接については、キャリアセンターの方との1対1の指導で、それぞれ対策した。どちらも、自分の留学計画をかなりブラッシュアップできるので必ず参加するべきだと思う。

面接に対して、留学計画をスケッチブックに印刷したものを準備したが、面接対策をする度に作り直す必要があり、面接日当日に完成するというぎりぎりの状態であった。そのため、準備期間を多くとるためにも、面接対策の日程は早めに設定することをお勧めする。

（面接当日）

① 個人面接

個人面接は、企業の方とトビタテ卒業生の方2人の面接官との面接である。

私の場合、時間制限などはなく、ただ留学計画を発表してくださいと面接官の方に言われた。留学計画発表後は、ひたすら企業の方に質問をされるという形であった。すぐに答えを出すのが難しい質問もされ、沈黙になってしまう時間もあった。事前情報では個人面接は和やかな雰囲気が進むとあったが、私の留学計画が甘かったせいか終始真剣な形の問答で進んだ。最後に時間が少し余ったため、自己アピールの時間が設けられた。私はひたすら、なぜ留学に行きたいのかを熱弁した。突然自由に話していいよと言われた際、私は焦ったので事前にある程度話す内容を決めておくことをお勧めする。

② 集団面接

集団面接は、5～6人グループで限られた時間で簡潔に留学計画を発表する。全員の発表が終わると、制限時間内で隣の人の発表に対して質問を行う。最後に、それぞれ今回学んだことを制限時間内で発表する。面接官は1人である。

私の実感として、集団面接では留学計画の内容というより、コミュニケーション能力が重点的にみられていると思う。他者からの質問を真摯に答え、他者の発表に適切な質問をすれば、他の応募者と差はつかないと感じた。

面接官も終始笑顔で、ディスカッションで一緒に会話をしていた。私は、制限時間内に計画を発表し終わることが出来なかったが、面接官が余った時間に続きを発表させてくれた。

集団面接では、自分よりすごいと感じる留学計画を立てている人たちがいるかもしれないが、焦らず、笑顔を心がけることが大事だと思う。

【最後に】

今回のトビタテ応募に関して、情報収集をしっかり行う（公式サイト、youtube、note など）ことが特に大事だと感じました。トビタテ公式サイトの合格者の留学体験記もとても参考になると思います。また、私は面接中は常に笑顔を心がけていました。是非参考にしてみてください。